

委員会行政視察報告書（令和7年11月10日）

日 時：令和7年11月10日（月）
視 察 先：東京都多摩市
視察事項：「所管事務調査：魅力ある図書館の在り方について」-多摩市の図書館事業について
内 容 <p>多摩市立中央図書館は、パーク P F I 事業を活用して改修整備が進められていた多摩中央公園内に令和5年7月に開館した新しい施設である。平成28年に発表された基本構想には、「知の地域創造」とのビジョンが示され、7年を経て誕生した。</p> <p>建物は地上2階地下2階で、1階は「静寂系開架」として落ち着いて読書や学習に取り組みたい利用者が集う場所に、2階は「広場系開架」として読書もおしゃべりも楽しめる空間として、幅広い世代が利用できる場所である。また、2階では各種イベントの開催や、グループワークが可能となるような設備も整備されている。カフェも併設され、午前中から図書館を利用しカフェで昼食をとって午後まで滞在する利用者もいるようだ。</p> <p>環境面では「ZEB Ready」の認証を取得。これは東京都の図書館では初の事例で、国でも久留米市・長崎市に次いで3例目。開館までには、市民とワークショップを重ね、市民の意見を基本設計に取り入れたとのことである。</p> <p>多摩市だけでなく近隣自治体からも多くの来館者があり、令和6年8月時点で、既に来館者数が100万人を突破。従来の図書館利用者のニーズを満たすだけでなく、子育て世代や若い人たちにこれまで以上に利用してもらえる図書館を目指し、様々な取組に挑戦している。多摩市ゆかりの児童文学作家・渡辺茂男氏（『エルマーのぼうけん』シリーズや『おさるのジョージ』を翻訳。『もりのへなそうる』の作者）のコーナーには蔵書等が展示。地域資料として多摩ニュータウン関連の地図や書籍等のコレクションもあった。</p>
視察を終えて <p>新たなまちづくりの一環として建設された図書館であり、時代のニーズに即したコンセプトのもと、様々なサービスを付加して、新しい価値を創造する街の姿を象徴するような場所であるとの印象を持った。</p> <p>建設に当たっては市民との対話を重ね、その意見を基本設計に取り入れるなど、行政と地域住民とのコミュニケーションの重要性を改めて感じた。</p> <p>多摩市では「第二次多摩市読書活動振興計画」が令和7年9月に策定され、その基本理念は「市民の『読む』『知る』『学ぶ』を支援し、自ら考え、共に課題を解決できる心豊かな地域を育みます ～『知の地域創造』の実現へ～」とし、さらに「だれもが使える図書館」「一人ひとりの子どもに寄り添うサービス」「市民のしらべるを支え、役立つ図書館」「持続可能な図書館の管理・運営体制の充実と強化」を基本方針に掲げ、計画を進めていくとのことであった。こうした内容は、市民にとって真に「魅力ある図書館」とは何か、という問題意識に大きな示唆を与えるものと考えられる。同じ多摩地域の図書館として、大変参考となる視察となった。</p>

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。

委員会行政視察報告書（令和7年11月10日）

日 時：令和7年11月10日（月）
視 察 先：東京都調布市
視察事項：「所管事務調査：魅力ある図書館の在り方について」-調布市の図書館事業について
内 容 <p>調布市中央図書館を訪問。調布市の図書館は、調布市役所に隣接する「文化会館たづくり」内に設置されている中央館を軸に、分館10館、外部資料保存庫1館で運営されている。市の初代図書館長であった萩原祥三氏の「買物籠をさげて図書館へ」との考えに示されるように、市民にとって身近で多くの人たちに利用される図書館運営を目指している。</p> <p>概ね800m四方にひとつの図書館が設置されていて、市民は歩いて10分で図書館を利用できるように配置されているとのこと。その機能を維持するために、大変な苦勞をされており、特に施設の老朽化対策が今後の大きな課題とのことであった。</p> <p>また、「映画のまち調布」の特色を反映させ、映画関係者から寄贈を受けたポスターや撮影で使用された台本など、貴重な資料も保存されている。漫画の所蔵も多く、特に市在住であった水木しげる氏の書籍や資料などの展示もされていた。サッカーJリーグの「FC東京」のホームタウンでもあるので、FC東京の選手たちによる「私のすすめるこの一冊」という冊子を平成26年から毎年発行するなど協働の取組を展開されていた。また、全国では6番目、公立図書館としては初めて、映画資料所在地情報検索システム（JFROL）に登録されている。JFROLは、シナリオ、ポスター等のノンフィルム資料の所蔵館を検索することができるシステムである。</p>
視察を終えて <p>初代図書館長の打ち出した明確な「図書館という存在」の意義づけは、調布市の図書館事業を長年にわたって貫いている信念とも呼ぶべきものであり、市民にとって図書館が「まず物理的に身近な存在であるということ」を重視し運営されていることを実感した。これは、「何かあれば図書館に行って学べる」「市民の憩いの居場所として親しまれる」という、生活における図書館の存在感を強くアピールするものであり、地域住民の図書館に対する心理面に大きく影響しているものと考ええる。</p> <p>また、映画等の市に関係する貴重な資料を保存維持するために、継続的に専門家として取り組める人材の確保が重要であるということも、その業務の多様さと共にご教示いただいた。サッカーチームなど、図書館事業とは異なる団体とも積極的に協働の取組をしていることも大きな魅力に映った。</p> <p>こうした地域に根差した特色を打ち出した運営が、大変個性的で市民に愛される「魅力ある地元の図書館」となる要素であることを学ばせていただいた視察となった。</p>

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。